

国際ロータリー第2770地区

THE ROTARY CLUB OF KOSHIGAYA MID-TOWN

Weekly Report

例会日 毎週火曜日 12:30~1:30
 例会場 山下工務店 大袋 GL2階
 事務局 〒343-0034 越谷市大竹686-3
 TEL 048-971-5320
 FAX 048-971-5370
 創立 平成2年5月22日

会長 山崎晶弘
 幹事 小池和義
 会報委員長 森紀二



第1093回 例会会報

- ・例会月日 平成25年4月9日(火)
- ・例会場名 山下工務店 大袋 GL2階
- ・司会者名 仲文成副会長
- ・来訪者名 鈴木由也様(越谷北RC)
- ・点鐘時間 12時30分
- ・齊唱RCソング 「奉仕の理想」
- ・発行月日 平成25年5月7日(火)

次月・次週インフォメーション

- 4/16(火) 越谷RC公開例会
- /19(金) 地区協議会
- /30 休会

会長挨拶



大野弘会長エレクト

山崎現会長が所用のため、代わって挨拶をさせていただきます。今年度も残り2ヶ月余りとなりました。来年は会長を仰せつかっておりますので、毎週このように挨拶をすることになります。先日行われた2回目のPETSのとき、「会長挨拶はどうしますか?」という話になりました。ご存じのようにロータリアンの三大義務は①会費の納入、②例会への出席、③「ロータリーの友」の購読です。そこで、「ロータリーの友」や「ガバナー月信」から記事を紹介する形で会長挨拶ができればと考えています。今年度の復習をする意味で今「ロータリーの友」を読み直しているところですが、その中から有用な記事をご紹介しながらロータリーの知識を深めていきたいと思っています。

早速、本日はガバナー月信第8号(2013.2)から「四つのテスト」について書かれたページを皆さんに配布しました。インターネット上に「ロータリーの源流」というサイトがあり、参考情報がたくさん掲載されています。私のパソコンにはRIと2770地区のホームページ、ロータリ百科、ローリー文庫、ロータリーの源流などロータリー関係のサイトをデスクトップに並べてちょくちょく見ていますが、なかなか面白い記事が載っています。皆さんも是非ご覧になってみてください。

配布した資料には我々が毎月第一例会で唱和している「四つのテスト」について、少し解釈が違うのではないか、といったことが書かれています。「1929年の世界大恐慌のとき、ロータリアンが成し遂げた大きな業績の一つに《四つのテストの制定》があります。倒産の危機にある会社の経営を引き受けたことになったシカゴ・クラブのハーバート・テラーが、従業員の正しい考え方、行動の指標として考えたものです。現行の翻訳は、この意図が完全に反映されているか否か?ということで議論もあるということですが、そもそも事業の倫理基準や商道徳を高めるために作られたものではなく、会社を再建させるために作られた極めて現実的な基準だということです。日常の倫理基準に

適用するものではありません」と紹介されています。

「真実かどうか?」は「事実かどうか?」ではないか。
 「みんなに公平か?」は「みんなに公正か?」ではないか。
 「好意と友情を深めるか?」は「取引先を増やすか?」ではないか。
 「みんなのためになるかどうか?」は「全ての取引先に利益をもたらすか?」ではないか。

このように非常に現実的な意味を持ったテストとして80年以上も前に会社の標語として用いたものが1932年にハーバート・テラーによって創設され、1934年に国際ロータリーにより採用されました。非常にわかりやすい指標であり、確かにハーバート・テラーは会社を再建するために現実的な標語として作った可能性が非常に高いにしても、その後、職業奉仕あるいは世界のロータリアンがこれを提唱するようになってついぶん時間が経っているですから、現実的な側面もありながらまさに今も倫理基準、職業倫理、職業奉仕というところの解釈も加わりつつ皆さんに推薦されている言葉だと思いますので、必ずしも今の表現(英文を訳したもの)が間違いということでもなかろうかと思っています。ただ、当初の目的あるいは意味はそういうことで少し違いがあったのではないかというように紹介されていますので、皆さんも是非目を通していただきたいと思います。100年を超えた歴史を振り返りますといろいろありますので、そのへんも参考にしながらご紹介していきたいと思っていますのでよろしくお願い致します。

幹事報告

小池和義幹事

1. 文教大学(外国人留学生別科) 中村様からお礼のメールが寄せられています。<留学生を仲会員の事業場でアルバイトとして雇用したことへのお礼>
2. 台北百城扶輪社への訪問予定者はバスポートのコピーをお預かりします。
3. 例会変更のお知らせ
 - ・越谷南RC
 4/11(木) 例会→越谷市グラウンド・ゴルフ大会
 5/30(木) 例会→越谷東RCとの合同親睦夜間例会
 - ・越谷RC
 4/16(火) 例会→同日 pm6:00 点鐘
4. 当クラブのリスボン国際大会登録者はおりません。

新会員入会式

2012-2013年度 国際



よろしくお願ひします

氏名：中村隆雄会員
職業：建築業



はじめまして、中村隆雄と申します。山下さんからご紹介いただきました。どうぞよろしくお願ひ致します。

卓話

鈴木由也様（越谷北RC）



皆さん、こんにちは。初めての方もいらっしゃいますので簡単に自己紹介をします。私は1930年に東大沢で生まれてから83歳になる今もずっとこの地に住んでいます。今週の金曜日から2週間ほど中国を旅行するためメークアップに来ました。たっぷりと時間をいただきましたので、83年間を振り返りながら世代の話をしたいと思います。それを中国の古典の中から拾い上げて当てはめてみると、「なるほど」という言葉があるように、40代は人間として一番強い時期。惑わず真っすぐに進む年代です。

人生いくら頑張っても100歳(100歳はまれですが)、これを大自然の四季(春、夏、秋、冬)に四等分してみると、生まれてから25年は春。成長し、体を鍛えるときです。中国の古典に「学ぶ」とあり、知識を身につける年代でもあります。25~50歳は夏の季節、30代は家族や仕事を持つて世の中に立つ年齢。「40にして迷わず」「40は強なり」という言葉があるように、40代は人間として一番強い時期。惑わず真っすぐに進む年代です。

50~72歳は秋の季節に入りますが、50代はその人がそれぞれの立場において重要な地位にある年代。古典に「天命を知る」とありますが、夏の時代のようにずっと走りっぱなしではなく、ちょっと立ち止まって己の力量を知ることがとても大切な年齢だということです。60歳は還暦、古典にある「耳順う」(みみしたがう)というは、他人の意見を素直に聞けるようになるという意味で、そうなれば自然と頭が垂れ、人格として非常に円熟してきます。60代は「耆(き)に入り指さす」という言葉があり、「耆」という字は人に尊敬されるという意味を持っています。60歳前後というのは人間として最も円熟し最高の山にある年齢、一般の人からも尊敬され度量、器量も一番花が咲いている時期です。“指さす”というのは中国では家庭のことを指しています。この年齢は秋真っ盛りで円熟のとき、私も振り返ってそう思います。

やがて70歳、「人生すべて事をなす」ときです。どう己を見るか、また世間はその人をどう評価するか、いつまでも自分の頭の上にハエを飛ばしているようではいけない年代です。今までずっとやってきたこともこのあたりでまとめるとき、自分の力量に合わせたまとめの段階です。それは仕事だけでなく、人生の生き方も含めたまと

めということです。皆さんがどう解釈するかは各々の価値観によって違ってきますが、非常に意味のある言葉だと私は思います。この年齢は「禅譲の心」、つまり家業を譲る時期だと言われています。50~72歳の秋の期間は、「人間として生きてきて良かった。」と感じる時期でもあります。この時期にどう自覚するかが次に来る冬の時代に影響してきます。一度立ち止まって己の人生を見つめ直すことがとても大切だと思います。

73歳以上は冬の時代、動植物なら葉が落ち冬眠に入る頃、体力も気力も落ちて医者通いが始まります。実際に私もこの頃に苦労しましたが、何とかそれを乗り切ってきました。またお金が無くなる年代でもありますが、使い切っても良いお金、いつでも自分が自由に使えるお金を持っていないことには冬の人生がとても惨めなものになります。私は80歳を過ぎて死の世界を実感するようになりました。「罪あれど咎めず」の年代でもあります。

誰しもやって来る冬の時代、60代あたりから先の生き方を意識し、どうすれば意義ある人生を過ごせるかを考え、少しだけ進路変更をしながら助走することが大切だと思います。自分が走る静かな場所を自分で見つけるのです。今までのよう脈やかな道路を突っ走るのではなく静かな場所を走るようにする、これがその後の生き方を幸せにするかどうかの分かれ道になります。私は50代の頃から少しずつ人生観を変え、静かな場所(桃源郷)への道を進んできました。そしてそれが私の原動力になっています。南極、北極を含めた174カ国、190回の海外旅行が私の活力の元になっていると思っています。

「流水は濁らず」は私がモットーとする言葉です。大都会の中にあるような水ではなく小さなせせらぎでも流れてしまえば、人間濁らずに生きていけます。楽しい道を求めて進めば、いつも明日が春のように生きて行けます。90歳くらいまではどんどん世界へ飛び立つように進んでいきたい、これが私の人生哲学です。いくらかでも皆さんの参考になれば幸いです。

■スマイル報告

菊地貴光社会奉仕委員長

・たいへんご無沙汰しました。本日はお世話になります。

鈴木由也様

・よろしくお願ひします。

大野 弘

・鈴木様、ようこそ。中村様、今後ともよろしくお願ひ致します。

小池和義

・鈴木様、ようこそ。卓話を楽しみにしています。中村さん入会おめでとうございます。

仲 文成

・中村さん、入会おめでとうございます。私の30年来の仲間です。たいへん素晴らしい人ですのでどうぞよろしくお願ひします。

山下良雄

・お客様、新入会員、ようこそ。よろしくお願ひ致します。

武藤正雄

・お客様、ようこそいらっしゃいました。本日もよろしくお願ひ致します。

佐々岡 修

・鈴木様、ようこそいらっしゃいました。本日はよろしくお願ひ致します。

山川純也

・森 紀二、菊地貴光

小計 10,000 円

■出席報告

菊地貴光社会奉仕委員長

会員数	出免除	出席数	欠席数	MU	出席率
16名	1名	10名		3名	86.7%